

令和5年度 大船渡市市民活動支援事業 活動報告

団体名	碁石地区復興まちづくり協議会
事業名	「鎮魂のハス池」整備



【事業概要】

2013年3月、平泉中尊寺より復興と平和のシンボルとして「中尊寺ハス」の株を譲り受け、被災した水田を、被災跡地の利活用として「鎮魂のハス池」を整備し、現在整備継続中である。

整備内容は、ハスの生育環境改善のための畦畔の嵩上げ、及び維持管理の効率化並びに観光客の利便性改善のための畦畔の拡幅整備である。

【実施効果】

「鎮魂のハス池」整備は、被災者及び地域住民の「憩いの場」として提供できしており、さらには、地区内外からの多くの観光客への「安らぎの場」となっている。結果交流人口の増大につながっている。

今年度行った畦畔の嵩上げと拡幅整備により、ハスの生育環境が整備されハス池の拡張が容易になった。また、地区内外からの多くの観光客への利便性が図られた。よって、ハス池の最終整備目標である 8,300㎡の整備に一步近づくことが出来た。

【今後の展開】

今年度の「鎮魂のハス池」整備は、資金の関係で未完成であるが今後この整備は継続する。現在整備済みハス池面積は1,300㎡超えであるが、最終的には8,300㎡超えまで整備し「中尊寺ハス池」としては日本最大級の面積規模となる。今後の整備対象水田は、震災後全く管理されておらず荒廃水田であり、これを整備することは遊休農地の解消となり、SDGsにおける目標15 陸域生態系の保護、持続可能な利用の推進並びに土地の劣化阻止回復を図ることができる。

整備後は、ハスの花期の最盛期である7月中旬「中尊寺ハス花まつり」を開催し、同時期開催される「碁石海岸ラベンダーまつり」と連携し、ハスの花の写真を募集しラベンダーとともに碁石海岸花の写真展を開催し、優秀作品を表彰、中尊寺ハスの思いを乗せてPR、観光地碁石海岸への集客を図る。

【市民のみなさんへ一言】

整備している「鎮魂のハス池」は、870年前、平泉中尊寺の初代藤原清衡の平和思想平和で争いのない極楽浄土世界を今ここに再現したいと考えている。

このハスの花を見ることで、震災を忘れることなく後世に語り継ぎ、被災地の一日でも早い復興を願い、鎮魂の念をもって犠牲者に寄り添ってほしい。

ハスの花言葉 「清らかな心」

《 中尊寺ハス 花凜とし我に言ふ 清く生きよと戒しむるごと 》

安らぎの光景広がる



見頃を迎えている「中尊寺ハス」

末崎の「中尊寺ハス」見頃

大船渡市末崎町山根地内の西館地域公民館近くにある休耕田で、「中尊寺ハス」の花々が見頃を迎えている。地元の基石地区復興まちづくり協議会（大和田東

江会長）が大切に管理しているもので、地域住民や基石海岸を訪れる観光客らの目を惹きつけている。中尊寺ハスは、昭和25年に実施された中尊寺金色堂

の調査で、奥州藤原氏四代・藤原泰衡の首桶から発見された種を培養したもの。平成5年に発芽、同10年には開花に成功し、現在の名が付けられた。

東日本大震災後、早期復興を願うシンボルとして、中尊寺が基石地区などの被災地に株分けした。

同地区では25年に譲り受けたのちに株を増やし、27年に地域住民から借り受けた基石海岸へ向かう県道沿いの休耕田へと移し、蓮田としての管理を始めた。多くの人に眺めてもらおうと、近くに駐車場も用意した。

例年は7月上旬に花が開き始める。近所の人たちによると、今年は暑さも手伝って6月中旬に一部開花が見られたという。

現在は、6〜7割ほどが開花。花々のはかなげなピンクと水面に浮かぶ葉の鮮やかな緑が調和し、極楽浄土を思わせる安らぎの光景を広げている。

ハスの花は朝に開き、昼頃には閉じていく。つぼみも多く見られ、見頃はしばらく続きそうだ。

A：畦畔整備前



B：畦畔整備前



A：畦畔整備後



B：畦畔整備後

